



市民 登場

No.726

ごみ拾い活動の普及に取り組む

横山 由貴子さん

◆よこやまゆきこ 枚方のさまざまな情報を共有できるフェイスブックグループ「枚方が好きやん」の内部グループ「ゴミ拾い部」部長。東香里元町在住。49歳。

「ごみ拾いは運拾い」一。自身が部長を務める「ゴミ拾い部」の合言葉だ。「楽しく前向きにやっていると良いことがあるんです。通りすがりの人がありがとうと声を掛けてくれたり、農家のおっちゃんが野菜を分けてくれたり」。淀川の河川敷など市内を部員たちと拾い歩く。今までに拾ったごみの量は「ゴミ拾い部」での活動も含め、45リットルのごみ袋500個分以上にもなる。

きっかけは6年前、道路脇に捨てられたごみをどうにかできないかと考えていたときに会ったアプリ「ピリカ」。世界中からごみ拾い活動の写真が投稿され、利用者同士が「いいね」ではなく「ありがとう」を贈り合う。雷に打たれたような衝撃だった。「そうか、自分で拾えばいいんだ」。アプリで拾ったごみの量を記録するのが楽しくて熱中したが1年で1人での活動の限界に気付いた。きれいにしても時

間がたつとまたごみが散乱しているのを目の当たりにし、「心がくじけそうになりました」。活動の仲間を増やすためにフェイスブックを始め、「枚方が好きやん」にたどり着いた。「地元をこよなく愛する人たちなら」とグループ内でごみ拾いの様子を投稿するとすぐに賛同者が集まり「ゴミ拾い部」が誕生。部のモットーは「楽しむこと」。仮装をしたり五六市で食べ歩きをしたりしながらごみ拾いをする部員たちの姿が評判になり、2年前のスタート時に20人だった部員も今では120人にまで増えた。「子どもの頃からよく何をしていても楽しそうと言われます」という自身の性格が部の雰囲気投影されている。

楽しむことの根底にあるのは「誰でも簡単にできると伝えたい」という思い。今後ごみ拾いの人の輪を広げていきたいと笑顔で話す。「愛する枚方を日本一ごみの落ちていないまちにしたいんです」。



「祭りの夜に」

今月号の表紙写真は、北楠葉町在住の橋本輝代さんが令和元年8月に樟葉北小学校の夏祭りで撮影。「地域の大人達が、毎年楽しみにしている子ども達のために頑張っているお祭りです。赤い光が広がるお祭り会場をクリスタルボール越しにのぞいてみると幻想的な世界が広がります」。



枚方の魅力を再発見できる風景写真を大募集。街中もOK。▶応募 電子メールに住所・氏名（ペンネーム希望の場合はペンネームも）・年齢・電話番号・電子メールアドレス、写真の説明を書いて写真データを添付し広報プロモーション課（kouhou@city.hirakata.osaka.jp）へ。
※応募作品は市公式のフェイスブックやInstagramで公開します。